

定例教育委員会会議録

2025（令和7）年11月18日定例教育委員会が、一宮市役所本庁舎11階1102会議室に招集された。

1 定例教育委員会議案案件

第35号議案 2025年度一宮市教育委員会事務点検評価報告（2024年度実績）について

第36号議案 一宮市立小中学校入学式及び卒業式の日について

第37号議案 12月補正予算の要求について

2 出席委員

高橋教育長 青山委員 川松委員 武藤委員 吉田委員 大島委員

3 欠席委員

森委員

4 一宮市教育委員会会議規則第15条の規定により出席したものの職氏名

森教育部長 平野教育部次長 伊藤総務課専任課長 尾関学校教育課長 岸上学校給食課長 墓越生涯学習課長

5 同上規則第17条の規定により書記として出席したものの職氏名

小栗総務課専任課長 平山総務課課長補佐 遠藤総務課主査

6 傍聴者

1名

会議てん末

高橋教育長（午後1時30分着席、開会を宣言）

ただ今から、11月の定例教育委員会を開催いたします。本日の会議録署名者を川松委員と青山委員のお二人にお願いいたします。それでは、10月の定例教育委員会の会議録がお手元に渡っていると思いますが、これについて何かございませんか。

各委員

異議ありません。

高橋教育長

ご異議がないようでございますので、10月の定例教育委員会の会議録について承認いたします。それでは本日の議案の審議に入ります。第35号議案 2025年度一宮市教育委員会事務点検評価報告（2024年度実績）についてご説明をお願いします。

伊藤総務課専任課長

第35号議案 2025年度一宮市教育委員会事務点検評価報告（2024年度実績）について、別紙案を添えて教育委員会の審議に付するものであります。提案理由は、地

方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、一宮市教育委員会事務点検評価報告を行うため、本案を提出するものです。（別紙（案）に基づいて説明）よろしくご審議をお願いいたします。

高橋教育長

何かございませんか。

委員

50事業について今後4年の予定をお示しいただいていますが、どのようなサイクルで点検していくのかを教えてください。

伊藤総務課専任課長

今回は2025年度から2028年度の4年間での点検ということになりますが、最初の年に点検する事業を全部洗い出します。今回は50事業が出てきましたので、それを4年に分けて点検します。前回2021年度から2024年度までの4年間で実施した時は43事業が対象となり、それを4年に分けて点検しました。前回点検した事業につきましても、今回からの4年の間に事業として継続していれば、この先4年の中のどこかで点検をしていきます。

委員

昨年は4年間の4年目であり、今年は新たな4年間の1年目という理解でよろしいですか。

伊藤総務課専任課長

ご認識のとおりです。

委員

はじめにの4行目に、「事務事業を推進するに当たり、各事務事業が効果的に行われているか」にある「効果的」という言葉が、昨年の「有効的」から変わっています。各評価シートの実績評価で、妥当性、有効性、効率性という3つの観点から評価されていますが、その評価シートの文言の「有効性」と「効果的」に違いがありますが問題ないのでしょうか。

伊藤総務課専任課長

今年度はじめにの文言を修正し、「有効的」に行われているかという表記を「効果的」に行われているかという表記に変えたという経緯がございます。評価シートの項目につきましても、次回以降検討して、整合性をとるような形にさせていただきたいと思います。

委員

評価員である学識経験者の方が、去年から3名のうち2名が代わっていますが、この学識経験者の方は毎年代わるのでしょうか。

伊藤総務課専任課長

評価員3名のうち、2名の方につきましては今年度から新しい方にお願いをしております。1年ずつお願いしていくことになりますが、当面は同じ方々に続けてお願いしていく考えです。

委員

実績評価の中にある、妥当性、有効性、効率性についてですが、実績評価は実績として過去形になっていますが、妥当性、有効性、効率性に関しては現状の説明文のように読めるので、どのようなものなのか説明していただけますでしょうか。

委員

同じ内容を違う言葉で私も質問させていただきます。昨年、実績評価の中に妥当性、有効性、効率性があるので事業を行った結果の実績が有効的、効率的だったかということを書くべきではないかと、先ほど他の委員が言われたことと同じことを私もお伝えしました。今書かれていることは、この事業自体を行う目的の妥当性、有効性、効率性が書かれていると思いますが、その点はいかがでしょうか。

伊藤総務課専任課長

この実績評価については、それぞれの事業としての妥当性、有効性、効率性を今まで表記していましたが、ご指摘を受けまして表記の仕方を検討させていただきます。

委員

ここにある全ての事業が同じような状況ではないように思われ、事業内容が変化しやすいものや、変化しにくいものがあると思います。その視点で4年に1回でいいものもそうでないものもあるのではないかと考えますが、4年に1回という頻度の妥当性についてはいかがでしょうか。

伊藤総務課専任課長

対象に挙がった事業を4年に割り振って実施していくのがスタートですが、必ずしも対象年度以外で評価しないわけではありません。

平野教育部次長

現時点で4年に割り振っていますが、なくなる事業や新規の事業もありますので、必要に応じて変えさせていただきます。過去には2年に1回行ったケースもあります。

委員

評価シートにある評価員評価についてですが、評価をするための基準が何かあるのでしょうか。

伊藤総務課専任課長

成果指標のような数値はありませんが、取組状況、変更点、改善点、実績評価の記載内容、更には今後の方向性などを踏まえ、総合的に勘案して評価員から評価していただいているいます。

委員

一つの事業に対して、数年の経年変化を確認できるような仕組みはありますか。

伊藤総務課専任課長

このシートについては、実施した年度と前年度との比較で作成されており、3年以上に渡って比較できる形にはなっていません。

高橋教育長

4年の経緯がわかる方が良いというご指摘は評価員からもいただいており、様式の変更を次回に向けての検討事項としています。

委員

3番の不登校対策推進事業や4番の一宮市スクールカウンセラー配置事業について、基本的に目指すものが、学校になじめない児童生徒が他の児童生徒と同じように学校生活を送れるように支援するのか、うまく学校生活を送れないことを認めながら支援していくのかという2つの考え方があると思いますが、方向性を教えてください。

尾関学校教育課長

以前は不登校を解消するということを主に取り組んでいましたが、今年度の不登校対策推進事業の評価の中でも、不登校を解消するということだけではなくて、今ある状況の中で、より充実した教育を受けていただくことにも注力をしていく必要があるとご指摘いただいています。学校教育課としても、例えばサポートルームの中で入学から卒業まで過ごすことも対策の一つとして考えていこうとシフトしています。

委員

3番の不登校対策推進事業の実績評価で、一宮市の不登校の発生率は愛知県や全国よりも高く推移しているという、どちらかというと悪い評価の表現がしてあるように見えますが、多様性を認めると自動的に不登校は増えると思います。大事なのは個々の児童生徒に寄り添うことだと思いますが、事務的に表現することによって偏って受け止められる恐れがあるため、中身を理解してもらえる表現にする必要があると思います。

尾関学校教育課長

評価員にも同じご指摘をいただいています。方向性がはっきり表現されていないということだと思いますが、いろいろな学び方をする子どもたちを認めて支援していくという考え方ですので、いただいたご意見に留意しながらしっかりと取り組ませていただきます。

高橋教育長

教室に戻りなさいということを言うだけではなく、自分が次に進むことを考えたり準備ができたりする場所として、サポートルーム等を用意していくことが必要であると考えています。

委員

ここにある事業とはどういうものでしょうか。

伊藤総務課専任課長

教育委員会の各課で実施している市の予算をつけて実施するものを事業としております。学校現場で行っている授業等は事業とはしておりません。

委員

ここにある事業の中には継続して行うものと、期限のあるものが混在しているのでしょうか。

伊藤総務課専任課長

事業期間をあらかじめ定めて実施するものもあれば、期間を設けずに継続していくものもあります。事業の目的が達成され完結すればその事業はその時点で終わるということもあります。

委員

この50の事業それぞれに各課で担当が決まっていて、業務を行っていると思いますが、4年間の事務点検の予定は、担当の方に偏りがないような配慮もしているのでしょうか。

伊藤総務課専任課長

各課で事務点検する事業の数に偏りがないようにしております。また各課の中でも担当に偏りがないような配慮をしています。

委員

10番の子育て支援ネットワーク事業について、子育て支援課と共に催すことによって、双方が持っている知識を共有し、効率的に事業を進めて行くことができ、より効果的な

事業を行うことができるのでないかと思いますが難しいでしょうか。

墓越生涯学習課長

委員のご指摘のとおりだとも思いますが、この事業は元々がボランティアで行っていただいていたという経緯があります。現在も予算的に僅かな報酬でお願いしている状況ですので、子育てネットワーカーの方に話を聞きながら進めさせていただいている。

委員

その方がコンパクトで行いやすい点もあると思いますが、子育て支援が縦に切れているような印象があるので、うまく機能するためには共催して情報共有したり、協力したりということがあってもいいのではと思いました。

森教育部長

フレッシュママ交流会などのボランティアの養成講座自体は、子育て支援センターができる前からあり、子育て支援センターができた当時に一緒にやって行うという議論もありました。教育委員会で行っているこの事業については、家庭教育として考えていて、お母さん同士での交流を深めようということが大きな目的となっています。一方で子育て支援課では、子育てについての相談を受けるなど、子どもに焦点を当てた目的となっており、事業の目的が異なっていることも共催が難しい一因となっています。

委員

分かりやすい説明ありがとうございます。ボランティアの方がこれから減っていく可能性もあると思いますので、ますます盛んになるようにお願いしたいと思います。

委員

先ほどの不登校対策推進事業について、不登校の状況から抜け出すのは難しいと思います。不登校になる前の、登校渋りや幼児期の登園渋りというような状況を早い段階でとらえて、その子たちが完全に家庭に入ってひきこもってしまう前に行う、何らかの対策をお考え頂ければと思います。

高橋教育長

不登校に至る原因は様々です。多くの課題がありますのでしっかりと整理して、学校への情報提供・指導をしないといけないと思っています。

森教育部長

小学校では「心の天気」という、その日の気分や気持ちを担任の先生が全員の分を把握できるアプリケーションがあり、子どもの気持ちの変化を客観的にとらえられる指標を持っています。中学校も生徒の悩み相談などを行う心の教室相談員という職員がいます。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなども配置されており、不登校になる手前の段階でのケアも行っているとご理解いただければと思います。

委員

不登校の子どもの数が大変多い学校もある状況の中で、周囲の保護者が不登校の子どもを少しでも減らすために何かできることはあるのでしょうか。

高橋教育長

様々な場面で子どもたちの話を聞いたりしていただければと思います。少しでも多くの方にサポートいただけすると、子どもたちはいろいろな形で話を聞いてもらうことができます。子どもたちにとって身近な存在でいろいろなことを聞いていただける人が多いということが大切なことではないかと思います。

高橋教育長

他に何かございませんか。

各委員

賛成いたします。

高橋教育長

全員賛成ですので、第35号議案 2025年度一宮市教育委員会事務点検評価報告(2024年度実績)については原案どおり可決いたします。続きまして、第36号議案 一宮市立小中学校入学式及び卒業式の日について、ご説明をお願いします。

尾関学校教育課長

第36号議案 一宮市立小中学校入学式及び卒業式の日について、別紙案を添えて教育委員会の審議に付するものであります。提案理由は、令和8年度の小学校及び中学校の入学式及び卒業式の日を決定するため、本案を提出するものです。(別紙(案)に基づいて説明)よろしくご審議をお願いいたします。

高橋教育長

何かございませんか。

各委員

賛成いたします。

高橋教育長

全員賛成ですので、第36号議案 一宮市立小中学校入学式及び卒業式の日について、原案どおり可決いたします。続きまして、第37号議案 12月補正予算の要求については、現時点で公表できない事項が含まれておりますので、秘密会として審議したいと思いますが、いかがでしょうか。

各委員

異議ありません。

秘密会による審議(原案どおり可決)

高橋教育長

以上をもちまして秘密会を終了し、本日の審議を終わります。次に報告事項をお願いいたします。

報告事項

伊藤総務課専任課長

一宮市教育委員会後援名義の使用許可について

2026年一宮市二十歳(はたち)のつどいについて

小栗総務課専任課長

シン学校プロジェクトの地域説明会について

その他の

伊藤総務課専任課長

12月・1月・2月・3月の定例教育委員会の日程について、給食交歓会の日程について、令和7年度第2回総合教育会議の日程について

閉会宣言

高橋教育長

これをもちまして、本日の会議を終わります。

以上、会議のてん末を記録し、相違ないことを証するため、ここに署名する。

教 育 長

委 員

委 員